

5月8日 taskey 株式会社 CFO 竹内壮輔氏

学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ

今回の講義では、企業の資金調達や経営管理、スタートアップ支援の実態について学び、特に CFO（最高財務責任者）やベンチャーキャピタル（VC）の役割についての理解が深まりました。CFO の役割は単なるお金の管理にとどまらず、資金調達や予算の調整、そして経営管理体制の強化を通じて、企業価値の向上に貢献することだという点が印象的でした。今まで CFO は裏方的な存在というイメージがありましたが、企業の未来を左右する非常に重要なポジションであることを実感しました。また、ベンチャーキャピタルに関しては、余剰資金の運用先としてだけでなく、スタートアップ企業の事業を共に進めていく「伴走者」としての役割があるという点に驚きました。VC は単に数字を見るのではなく、時には直感や感覚的な判断で投資を行うこともあるという話から、投資の世界にはある種の「ギャンブル的要素」があることを感じ、リスクと挑戦が常に隣り合わせであることが分かりました。資金調達において、株式の発行よりも融資（借金）のほうの方が得策だという話も興味深かったです。株価の上昇による持ち株の希薄化よりも、一定の利息で済む融資の方が、結果的に企業価値を保ちやすいという考え方は、これまであまり意識したことがなかった視点でした。

最後に、イノベーションはスポーツに似ていて、方法論を学び、型を身につけることが重要という話にはとても納得しました。新しいアイデアや技術の創出は、ひらめきだけでなく、日々のトレーニングや知識の積み重ねによって実現されるということを改めて感じました。この講義を通じて、企業経営や投資、イノベーションに対する理解がより現実的で実践的なものになりました。今後、自分がビジネスの現場に関わる機会があった際には、今回学んだ CFO や VC の視点を持ちながら考えることが大切だと感じました。（経営学部1年）

今まで授業に講師として来ていただいた方々と違った観点からのお話で知らなかったことが多くとても興味深かったです。特に一番印象に残った学びは、投資よりも融資をまずは考えるべきだということです。自分は将来返さなくてよいのが投資だから投資のほうが優れていて優先すべきだと思っていましたが、竹内さんのお話を聞いて驚いたと同時に非常に納得しました。株を手放してしまうと仮に会社が大きく成長した場合に失う利益が大きいという視点は自分にはなく、まだまだ物事を俯瞰して合理的に考える能力が足りていないことを痛感しました。投資に対して融資の場合は借りた分と比較的小さな利子を返せば済むのだから今では圧倒的に融資のほうが良いと感じます。VC は悪魔だというたとえば面白かったですが、確かにその一面もありそうだなと思いました。

またイノベーションはスポーツに似ているというお話は自分にとってかなり画期的でし

た。自分にもイノベーションを起こせるかもしれないとワクワクしました。理論を学び繰り返し訓練をするということをしてみようと思います。メルカリのようなイノベーションに憧れていたの社会に新たな価値を創造できるようになりたいです。

また日本人は失敗を恐れアメリカ人は失敗を喜ぶというお話は自分にも思い当たる節があり真面目に改善していく必要を感じました。普段から意識的に失敗をしようとして挑戦してみるのもよいのかもしれないと思いました。加えて竹内さんが現地に行って学んだように自分も実際にそのような環境に飛び込むことで自分の内部が変わるのかもしれないなとも思ったので、機会を作って挑戦していきます。(経営学部1年)

今回の講演を通して、私は起業やベンチャーキャピタルの世界が、思っていた以上に多様で実践的なものであることを知りました。特に印象に残ったのは、竹内さんが「イノベーションには方法論がある」と話していた部分です。ひらめきや才能だけでなく、学んで実行することで社会に変化をもたらせるという考え方はとても新鮮に感じました。

また、ベンチャーキャピタルが単なる投資家ではなく「事業の伴走者」であるという考え方も印象的でした。成功するかどうかわからない領域に飛び込み、若い起業家を信じて資金を託す姿勢は、リスクをとる勇気と未来への期待がなければできないことだと思います。インスタグラムやメルカリのような大企業でも当初は投資されなかったと聞いて、先が読めない投資の世界は面白くもあり、厳しいものなのだと分かりました。

「学生のうちは失敗しても損失が少ない」とおっしゃっていましたが、この言葉には、挑戦することの大切さと、若いうちにしかできない経験の価値が詰まっていると感じました。私自身、今年の夏休みに短期留学をすることが決まり、正直不安でいっぱいですが、失敗は将来の糧になると信じて、積極的に現地の人に話しかけたり、やったことのない経験を積んでいこうと思いました。

これからの時代、AIの活用や日本独自のアニメ文化の強みなど、世界に向けて発信できるチャンスがますます広がる中で、自分がどのように関わっていけるかを真剣に考えるきっかけになりました。ありがとうございました。(理工学部1年)